

今こそ!

岩手の

底

デカラ

支援企業紹介

岩手県花巻市

わどうさんぎょう

和同産業株式会社



花巻市中心部より南に約3km、市街地近郊に広大な本社工場を構える和同産業株式会社は、全国でも指折りの除雪機械生産メーカーとして知られています。本社工場のほか北海道や長野にも営業所を構え、雪国の暮らしを支える同社の取り組みについて取材しました。

やるからには市場No.1の企業に 設備を生かす工場運営と人材育成

花巻市郊外の6万㎡を超える敷地に本社工場を構える和同産業株式会社。1941年に旧東北資源株式会社として創業、以来70年にわたり機械製品の開発・製造を行なっている老舗機械メーカーだ。

現在の主力製品は、中・大型除雪機と草刈り機・豆刈り機などの農業機械。研究開発から設計、加工、製造にいたるまでを一貫して自社で行い、自社ブランドの製品は除雪機・農業機械ともに各約30機種豊富なラインナップを誇っている。

さらには、大手メーカーから委託された小型の家庭用除雪機の製造や、充実した設備を生かした機械部品の塗装などの下請け業務も行なっている。

敷地内には部品を製造する機械工場、プレス工場、溶接工場、塗装を行なう処理工場、ライン化された組立て工場を経て、最終的な検査を行う品質工程がある。

溶接工場では、産業振興センターの設備貸与制度を利用して導入された溶接ロボットが何台も稼働し、アームが休みなく動き続けている。処理工

場では、工場面積の大部分を埋め尽くすほど巨大なカチオン電着塗装の機械設備が稼働。自社製品の作業はもちろん、関東自動車工業(株)の下請け会社から塗装工程を請け負うなど、2交代制を敷きフル稼働している。組立て工場では、秋から冬にかけてシーズンを迎える除雪機の組み立てが最盛期を迎えており、若い従業員たちがきびきびと赤い機体を完成させていく。小型除雪機1台あたりの組み立て時間はわずか5分程度。品質工程を通過した除雪機が毎日120台出荷されている。

地方企業の弱みと強みを使い分け モットーは「脱」下請「拡」下請

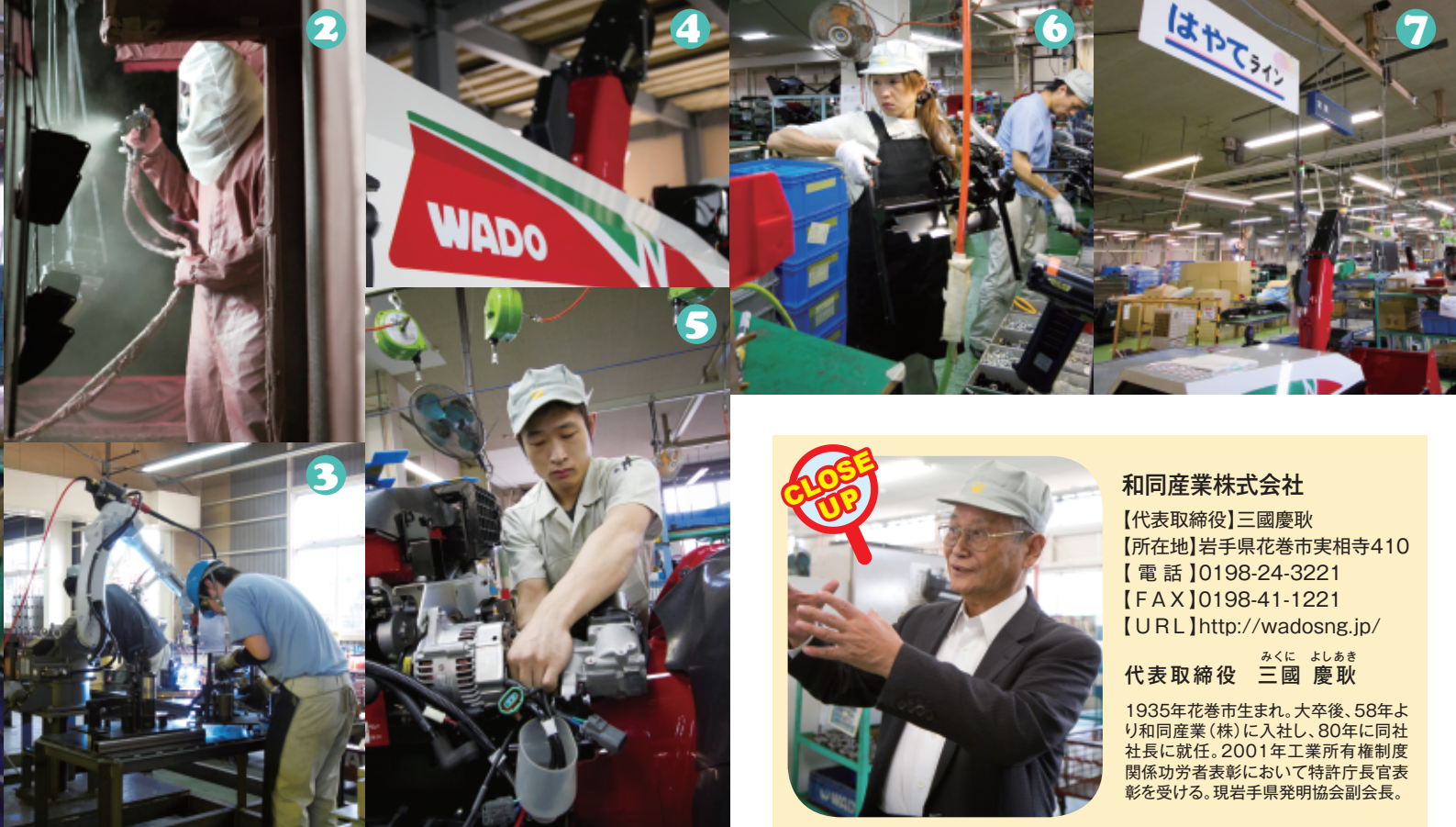
同社における自社ブランド製品と受注製品の売上げは同程度という。「当社では“脱・下請け”をめざしています。それと同時に“拡・下請け”もめざしています」と三國慶耿社長は語る。

地方の中小企業は大手メーカーに比べると、どうしても最先端の技術や部品の情報が手に入りにくい。特に季節商品である除雪機や農業機械の開発では、他社に新技術導入で先取りされると2年のブランクができてしまうという。三國社長が

今月の
表紙

和同産業株式会社の組立て工場にて。若い従業員3名が慣れた手つきでスピーディーに除雪機を組立てていく。

1日の目標台数や現在の生産台数を電光掲示板に表示することで、工場業務の「見える化」を図り、5分に1台のペースで除雪機が完成していく。



和同産業株式会社

【代表取締役】三國慶秋

【所在地】岩手県花巻市実相寺410

【電話】0198-24-3221

【FAX】0198-41-1221

【URL】http://wadosng.jp/

代表取締役 三國 慶秋

1935年花巻市生まれ。大卒後、58年より和同産業(株)に入社し、80年に同社社長に就任。2001年工業所有権制度関係功労者表彰において特許庁長官表彰を受ける。現岩手県発明協会副会長。

「十年はひと昔と言うけれど、今は1年で時代が変わる」と現況を見据える中で、2年のブランクは大きな打撃だ。

しかし、地方ならではの強みもある。実際の顧客から現場の意見や要望など、細やかな聞き取りを行うことができる点である。「社長は会社にはダメ」という理念を持つ三國社長。製品開発などに役立つ情報を集めるため、顧客を訪ね各地を飛び回る日々だ。「試作機などを持って現場に行くと、思わぬ要望がたくさん出てきます。どれも“なるほど”と思うことばかり。農作物や自然を相手にしている機械なので、年によっても状況は変わります。お客さんに怒られることも、いいヒントになることばかりですよ」。足で集めた現場の声は、大手メーカーとの情報交換や共同開発に生かされている。大手メーカーとの強固なパートナーシップを構築することで、“脱・下請け”そして“拡・下請け”をめざしている。

ものづくり大国日本の企業として課題を見据え、進化をめざす

同社では、3月の大震災を期に自社製品の売上げが落ち込んでいるという。「日本には資源が無い。だから、ものづくりを続けなくてはならないのは確か。品質、コスト、納期、これらを確実にクリアしていくしかない」と語る三國社長。「当社では春期の商品開発がこれからの課題です」と、自社の

将来を見据えている。

これまでも、社員の発表の場としてコンテスト等にも積極的に参加、発明関連の受賞は数多く、企画開発に意欲的だ。産業振興センターを通じた展示会への出展や、「工場管理実践塾」への参加を通し、販売力の確立や生産性の向上にも力を入れている。

「今年、来年とがんばるしかない、進んでいけば将来の道は自ずと見えてくる。今年は震災や電力削減で大変だった分、今後はいいことがあると思いますよ」。そろそろ後進に道を譲ろうかな、と笑いながらも若々しく顔を輝かせる三國社長。岩手を代表する企業として、「昨日より今日、今日より明日」の精神で今後も進化を続けていく。

< P.2・3写真 >

1. 組立てラインの作業の様子。生産目標や実績数を電光掲示板に表示することで「見える化」を導入している
2. 処理工場の様子。機械を通ってきた部品に、最後は人の手作業で塗装の仕上げ
3. 溶接工場では何台もの溶接ロボットが活躍
4. 雪や草むらの中でも目立つ「和同レッド」をブランドイメージに採用
5. 組み立てラインでは、若い従業員が手早く作業をこなす
6. 女性従業員も活躍する組立て工場の現場
7. 「はやてライン」とは生産ラインのこと。遊び心ある作業環境
8. カチオン電着塗装の設備
9. プレス工場のレーザー切断機
10. 自社ブランド製品が並ぶストックヤード
11. 本社社屋。奥には工場が建ち並ぶ

